



■関屋分水路 通水50周年（写真は、分水路河口より上流を望む）
関屋分水路は、新潟市を信濃川の洪水から守ること、新潟西港への土砂堆積を減らすことを主目的に建設され、1972（昭和47）年8月10日の通水開始から今年2022（令和4）年8月10日に通水50周年を迎えます。
信濃川の洪水の大半を関屋分水路で流下させることにより、信濃川では緩やかな斜面をもつ堤防「やすらぎ堤」の整備が可能となり、新潟市が整備する「遊歩道」や「やすらぎ堤緑地」などの周辺整備とも連携して「水都 新潟」のシンボリックな空間を形成しています。
・関屋分水 通水50周年 <https://www.hrr.mlit.go.jp/shinaga/sekibun50th/>
【写真提供：北陸地方整備局 信濃川下流河川事務所】

- 2 **視点**
サステナブルな建設業界への取り組みの推進
■（一社）日本建設業連合会北陸支部 支部長
大成建設（株） 北信越支店 常務執行役員支店長 岡田 正彦



歩測式スラムレーザー手法

- 3 **技術レポート**
i-Construction 生産性向上効果
現場条件を踏まえた法面での
三次元計測手法の工夫
■（株）興 和
7 耐久性向上と施工性改善を目指した土系舗装の開発
高耐久土系舗装 オーククレーR
■大林道路（株） 技術研究所 藤井 秀夫

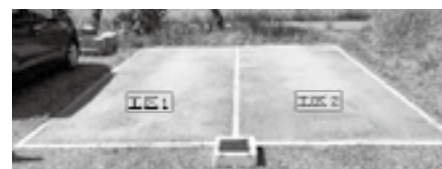


吊下げ式UAV写真測量
▶P.3

- 11 **シリーズ**
現場技術者の「知得」
2022年度 北陸地方整備局の
工事・業務の円滑な実施について
■北陸地方整備局 企画部 技術管理課



施工場所（3か月後）



施工場所（2年半後）
▶P.7

- 15 **職場紹介**
「SHIOTANIアカデミー」の開校
建設DXへの挑戦・活用
■塩谷建設（株）



若手社員意見交換会▶P.15

- 18 **先輩なう！**
人々の安全・安心を担う建設業
■富山県新川土木センター入善土木事務所
道路班 野口 大輔 さん

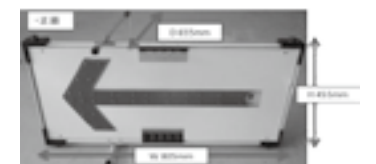


富山県新川土木センター
入善土木事務所 道路班
野口 大輔 さん▶P.18

- 20 **新技術情報**
■Made in 新潟 新技術普及・活用制度
・ポリエチレン製U字溝専用のプレキャストコンクリート枠
【登録番号：2021D104】
（株）アドヴァンス
・高輝度・LED矢印板
【登録番号：2021D105】
（株）レックス



製品写真▶P.20



製品写真・寸法▶P.20



「i-Construction（アイ・コンストラクション）」とは？

国土交通省では、建設現場で働く労働者一人一人の生産性を向上させ、魅力ある建設現場を実現する「i-Construction」の取り組みを進めています。

「i-Construction」は、「ICT技術の全面的な活用」、「規格の標準化」、「施工時期の平準化」等の施策を建設現場に導入することによって、建設現場のプロセスの最適化を図り、もって魅力ある建設現場を目指す取り組みです。

本誌では「i-Construction（アイ・コンストラクション）」に関連する取り組みや建設現場などの記事を読者の皆様にわかりやすく知って頂くために、当該記事に上記ロゴを表示しています。

※このロゴは平成30年6月1日に国土交通省が決定したロゴです。建設業界はもちろん、業界を超えて社会全体から応援される取り組みへと「深化」するシンボルとなっています。

「北陸の建設技術」への意見、ご感想がありましたらお聞かせください。
E-mail:hokugi@hrr.mlit.go.jp